



DX化の推進

デジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し、町民の利便性向上や暮らしの快適さを高める「暮らしのDX」として、自治体公式LINEの導入及び国が示す情報システムの標準化・共通化の取組を進めてまいります。

ふるさと応援寄附金事業推進

ふるさと応援寄附金は、総務省の適正基準の改正によりルールが厳格化されましたが、本年1月末時点での寄附件数は4359件、金額では5062万3千円で、前年度同月比は件数で11.5%、金額では27.3%増えています。しかし、年度当初の目標1億円には遠く届かず、抜本的なテコ入れを行い、6年度から新たなスタートが切れるよう準備を進めているところです。

ふるさと応援寄附金事業は町の自主財源確保に直結するとともに、町の認知度アップや地域経済の活性化に資する幅の広い施策です。町内産の返礼品の開発・掘り起こしやクラウドファンディング方式の導入など、積極的な事業推進を図ってまいります。

新修・桂川町誌

「桂川町誌」編さん事業については、企画財政課内に町誌編さん準備係を置き、取組を進めてまいりました。これまでに、「町誌編さん事業推進本部」を立ち上げ、町誌編さんの基本方針及び編さん計画を策定したところです。

現在の「桂川町誌」は、昭和42年の刊行から50年以上が経過しており、この間、本町は、エネルギー政策の転換に直面したり、平成の市町村合併協議会からの離脱など、大きな時代の転換期に遭遇しながら、まちづくりを推進してきました。

現存する資料等を改めて整理し見直すとともに、郷土の歴史や文化を記録することにより、町民の皆様のふるさとの理解と郷土愛を深め、町民共有の財産として、今回「新修・桂川町誌」を編さんしようとするものです。



▲昭和42年発行「桂川町誌」

県道豆田稲築線(九郎丸工区)

県道豆田稲築線(九郎丸工区)の道路改修については、事業着手から5年目を迎えることとなり、福岡県飯塚県土整備事務所において、道路用地の買収協議が進められているところです。

道路工事に着手するためには、用地買収が不可欠であり、桂川町としても地元協議等について支援を行い、事業の推進を図ってまいります。

